

愛と光の中を歩く神の子供たち

聖書：エペソ 1:5, 9, 5:1-14, I ヨハネ 4:8, 16, 1:5

- I. 神の大いなる喜びは、人と一になり、人を神格においてではなく命と性質において、神と同じにすることです——エペソ 1:5, 9。
- II. わたしたちは神の子供たちとして、神・人であり、神から生まれ、神の命と性質を所有し、神の種族に属しています——エペソ 5:1, I ヨハネ 3:1, ヨハネ 1:12-13:
- A. 神はわたしたちの実際の真の御父であり、わたしたちは神の実際の真の子供たちです——I ヨハネ 3:1, エペソ 5:1。
 - B. 宇宙での最大の奇跡は、人が神から生まれることができたことと、罪人が神の子供たちとされることができたことです——I ヨハネ 3:1, 9, 4:7, 5:1, 4, 18, ヨハネ 1:12-13。
 - C. そのような驚くべき神聖な誕生を通して、わたしたちは神聖な命、すなわち、永遠の命をわたしたちの存在の中へとまかれた神聖な種として受けました——I ヨハネ 1:2, 3:9。
 - D. わたしたちは神聖な命から生まれ、神聖な命を所有しているので、わたしたち神の子供たちは神聖な人です——5:11-13, 3:1, 10。
 - E. わたしたちは神から生まれた者として、神聖な命を持っているだけでなく、神聖な性質も持っています——II ペテロ 1:4。
 - F. わたしたちは神の子供たちであり、神の命と性質を持っているので、神に倣う者になることができます——エペソ 5:1。
 - G. わたしたちは御父の子供たちであり、御父の命と性質を持っているので、御父が完全であるように、完全であることができます——マタイ 5:48。
- III. わたしたちは愛と光としての神を知り、経験する必要があります——I ヨハネ 4:8, 16, 1:5:
- A. 愛と光は、実は神ご自身です。それらは神の存在、神の本質です——4:8, 1:5。
 - B. ヨハネの第一の手紙が言っているのは、神は光であるということと(5 節)、神は愛であるということです(4:8, 16)。
 - C. 愛は神の本質の性質として、恵みの源であり、光は神の表現の性質として、真理の源です。
 - D. 神聖な愛がわたしたちに現れるとき、それは恵みとなり、神聖な光がわたしたちを照らすとき、それは真理となります。
- IV. わたしたちは神の子供たちとして、愛と光の中を歩くべきです——エペソ 5:2, 8:

- A. 恵みと実際(真理)が、第4章17節から32節の基本的要素であるように、愛と光は、第5章1節から33節におけるパウロの勧告の基本的要素です：
1. 恵みは愛の表現であり、愛は恵みの源です。真理は光の啓示であり、光は真理の根源です——Ⅰヨハネ4:8、1:5。
 2. 愛は神の内なる実質であり、光は神の表現された要素です。神の内なる愛は感じるができるものであり、神の外なる光は見るができるものです。
 3. 神の子供たちとしてのわたしたちの日常の歩みは、神の愛する実質と、神の輝く要素で構成されているべきです。これが、わたしたちの歩みの内なる源であるべきです。
 4. 愛と光の中を歩くことは、真理にしたがって、恵みによって生きることよりも深く、細やかです。
- B. 「愛の中を歩きなさい。キリストもわたしたちを愛して、ご自身をわたしたちのために、神へのかぐわしい香りのささげ物、またいけにえとしてささげられたのです」——エペソ5:2：
1. 愛の中を歩くとは、神と親密に歩くことです——参照、Ⅰヨハネ3:1：
 - a. 御父の臨在の中で、わたしたちは恵み、すなわち、愛の表現を享受するだけでなく、愛そのものを享受します。
 - b. わたしたちは日常の歩みの中で、常に御父の感覚を顧みるべきです。なぜなら、わたしたちは彼の優しい愛の中で、親密に生きているからです。
 2. エペソ人への手紙の目標は、わたしたちを神の内なる実質としての愛の中へともたらし、わたしたちが神聖な愛の甘さの中で神の臨在を享受し、キリストが愛したように人を愛することです——5:25：
 - a. 愛の状態と雰囲気の中で、わたしたちは神で浸透されて、神の御前に聖く傷のない者となります——1:4。
 - b. わたしたちが成長のために根ざし建造のために土台づけられる愛は、わたしたちによって实际的に認識され経験される神聖な愛です——3:17。
 - c. キリストの愛はキリストご自身であり、計り知れず、知識を超越していますが、わたしたちはそれを経験することによって知ることができます——19節。
 - d. キリストにある神の愛の中で、わたしたちは真実、すなわち、キリストと彼のからだを固く保ちます——4:15。
 - e. キリストのからだは、愛の中でそれ自身を建て上げます。キリストのからだの建造のために、わたしたちが何であるにも何を行なうにも、愛が最も卓越した道です——16節、Ⅰコリント12:31。

- f. 不朽不滅の中で主を愛するとは、新創造の中で、エペソ人への手紙に啓示されているすべての不朽の事柄にしたがって、彼を愛することを意味します——6:24。
3. 再生されて神の種族となった者として、わたしたち、神の子供たちは、愛であるべきです。なぜなら、神は愛であるからです。わたしたちは命と性質において神となるので、愛ともなるべきです——Ⅰヨハネ 4:8, 16。
- C. 「なぜなら、あなたがたはかつては暗やみでしたが、今は主の中で光であるからです。光の子供たちとして歩きなさい」——エペソ 5:8：
1. 神は光ですから、わたしたち、神の子供たちは光の子供たちです——Ⅰヨハネ 1:5. エペソ 5:8. ヨハネ 12:36。
2. わたしたちは光の子供たちであるだけでなく、光そのものです。わたしたちが光であるのは、主の中で神と一であるからです——マタイ 5:14. Ⅰヨハネ 1:5。
3. わたしたちは光の中にある時、正しいか間違っているかの領域の外にいます——7 節。
4. わたしたちは光の子供たちとして歩くなら、エペソ第 5 章 9 節に記述されている実を結びます：
- a. 光の実は、性質において善、手続きにおいて義、表現において真実であるに違いありません。それは神が、わたしたちの日常の歩みの実際として表現されるためです。
- b. 善、義、真実にある光の実は、三一の神と関係があります：
- (1) 父なる神は善であり、それは光の実の性質です。ですから、エペソ第 5 章 9 節の善は父なる神を指します——マタイ 19:17。
- (2) 義は子なる神を指します。なぜなら、キリストは神の義なる手続きにしたがって、神の目的を成就したからです——ローマ 5:17-18, 21。
- (3) 真実は、光の実の表現であり、霊なる神を指します。なぜなら、彼は実際の霊であるからです——ヨハネ 14:17. 16:13。
- c. わたしたちが光の子供たちとして歩いている証拠は、そのような実を結ぶことに見られます。